



よこ館だより



Est.1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 うめ草 ⑳ <社会福祉法改正対応>

法人の一体化を担保する具体的な取り組みとして昨年末、社会保険の統一化が成ったことは法人のガバナンスにとって節目になる出来事でした。このことも踏まえ、今回はガバナンスの在り様として至誠学舎立川の役員構成の考え方についてお伝えしておきます。

法人の役員は理事と監事です。そして評議員は法人事業に対し意見を述べる役割でした。現在定員 21 名の評議員の内 9 名は法人幹部職員ですが、来年度からは定員は 11 名となり、職員は加わることが出来なくなります。新評議員は理事会で選任された「評議員選任・解任委員会」が選任します。そして 6 月に開催される新評議員による「定期評議員会」で、決算の承認と同時に理事・監事を選任し、会計監査人も承認します。その後開催される新理事会の決議で新理事長が選ばれます。新しい法人においては理事会の議決により理事長の責任と権限が明確化されるのです。

現在の評議員は 3 月末日を持って法の規定により任期が終了します。そして評議員選任・解任委員会で決められた新評議員が 4 月 1 日から就任することになります。職員の評議員、また 70 歳の定年（事情によっては 75 歳まで延長）を超えた役員方が退任され、結果的に評議員は全て外部の方となります。

そこでガバナンスに関わる重要な点は、理事会構成と機能です。今まで理事会は最高意志決定機関でしたが、新しい法施行以後は執行の責任を持つ機関に機能が代わります。いうなれば取締役会となります。外部の理事は会社で言うところの社外取締役です。そして従来定員 10 名の内、理事長・常務を合わせ内部理事が 5 名でしたが、新しい理事会構成では 8 名を想定しています。職員のキャリアパスを上り詰めたポジションが理事であり、法人の経営責任を持つ役に付くということです。

以上、法人として法改正に合わせた考え方をお伝えしましたが、次回、次々回には役員の実体的なお名前をお知らせできることとなるでしょう。

理事長 橋本正明

事業本部長メッセージ

桃の蕾も膨らみ、年度末を迎える丁度この時期、ひな祭り会として行われていた行事が、今では、「成長を喜び会」として保育事業本部各園で行っています。写真は法人新任研修資料に掲載の、至誠学舎柳橋保育園 65 年前のひな祭り会です。現在においては、当時と様子は異なるものの日常的に日頃からの基本的な生活習慣で培ってきた姿や、様々な表現活動を通して、子どもの確かな成長を喜び合い、祖父母をはじめ家族でその成長を共に確かめ合うよい機会になっています。多くの方々がこの日を楽しみにしています。そして、年長児は小学校へと次のステージへの夢をふくらませ、飛び立つ時を迎えるのです。年度末の慌ただしい時期ですがしっかり接続していきます。

いよいよ 29 年度、チャレンジです。事業計画を着実に進め、心を一つに纏めていきます。新たな統一給与はキャリアパスへの意欲に繋がり、ここで新人職員も無事に配属されて、人事異動等、体制が整ってきました。ICT 化プロジェクトも期待されています。これから真価が問われてきます。大きく帆を広げ新しい風に乗って期待に応えていきます。

保育事業本部長 稲永勝行



「柳橋保育園」開設当初の様子
昭和 26 年ひなまつりで古切り傘を演じた子供供達

この写真は園の中、後方から見て左に「柳橋保育園」の前身である「立川女子学院」の校舎、右側に 2 年間の児童福祉法改正に伴い、2017 年 4 月 1 日に開設された柳橋保育園、奥に 1 号校舎が写っています。

至誠学舎

事業本部情報

◆児童事業本部◆

多摩川の自然も少しずつ変化を感じ春の光が眩しくなりましたが、まだまだ寒い日が続いています。さて、至誠大空の家サテライト型児童養護施設「カルガモハウス」も2月1日無事にオープンいたしました。多くの皆様のご支援ご協力に心より御礼申し上げます。そして、障害者福祉サービス事業における「まことホーム アウリンコプラス」「まことカフェ・クッカ」についても至誠ホームアウリンコ内にまもなく開設いたします。新たな社会的養護の取り組みと障害福祉事業として児童事業本部全体で取り組んでまいります。この三月には高校を卒業し、いよいよ児童養護施設を巣立っていく子ども達も進路が決定し、自立への準備を進めております。幼い頃から生活を共にしてきました私たち職員も子ども達の不安や希望が錯綜する気持ちに寄り添い社会人として彼らの新たな旅立ちに心からエールを送ります。「健康に気をつけて頑張ってください」
(櫻井 壽)

◆保育事業本部◆

三月は出船入船、入園と卒園、保育園にとって悲喜こもごも、複雑な持ちが去来する月です。入園希望者は区・市で一括して受け付けており、2月上中旬にその決定者名簿が園に届けられました。待機児童数が多い中、入園決定されたことに御父兄はお喜びのことでしょう。小学校入学を控え、園児の約2割が卒園していきます。近年、その半数以上が6年間の保育を経験しています。保護者とともに手塩にかけて育てたという思いを持ち、保育証書とともに渡す作品集やアルバムを準備しながら感慨にふける保育者が多いことでしょう。健やかに成長されることを祈りましょう。職員については新規採用職員名簿も整い、新人職員研修も始まります。新たな展開が充実したものになりますよう、ご多幸を祈ります。筆者は来年度事務局長の交代でこの欄の担当を終わり新たな役割へと進みます。ご愛読ありがとうございました。
(高橋 紘)

◆高齢事業本部至誠ホーム◆

3月は別れの季節。4月1日付けの異動で職場を離れる方々がいます。また、ご結婚や転居、転職など様々ですがホームを去る人もいます。至誠ホームでは各ブロックで送別会が行われます。この会は笑いもあるが涙もあって、思い出に残ります。

今回は 永年ご勤務された栗原園長のご退任があり、お世話になった皆さんが送別の宴を企画しました。ところが、当初ご本人は皆さんお忙しいことであろうと固辞されました。でも最後は私たちの気持ちを受け取ってくださいました。お人柄が滲み出るところでした。

私自身もいろいろ思い出があります。別れはつらいものですが、ニーチェ曰く「別れは人を強くする」との話もあり成長へとつなげて参ります。

栗原園長以外にも至誠ホームを去られる方 お疲れ様でした。有難うございました。
(深謝) (金井 裕一)

本部事務局だより

先日の平成29年度新規採用者研修会は、アウリンコ効果で過去最高の99の方が参加し、法人の役員とスタッフを含めると至誠学園の講堂が限界状態になりました。

恒例の施設見学で私は「まこと館」の説明を行いました。去年までは、4組程度だったのが5組に増えて、途中で声が枯れかけてあわてましたが、かろうじて完了。元々、5分の持ち時間で「まことの心」「御鳳輦舎」「創設者稲永久一郎翁頌徳の碑文」「遥拝台」等を説明するのは無理なのですが、ついつい欲張って持ち時間オーバー。

それにしても採用が厳しいといわれる中で、あれだけの採用を行った担当者の方には本当に頭が下がります。ご苦労様でした。

さて、私事で恐縮ですが、私、石橋は、3月末で法人事務局長を退任し、フレッシュマンになります！（野島次長が法人事務局長に就任予定）至誠学舎立川の役職員の皆様には、大変お世話になりました。皆様のご活躍、ご多幸を心より祈念しております。ありがとうございました。
(石橋 正央)

<編集後>年度末になりました。周りは騒がしくなってきましたが、法人事務局では、理事長が遥拝台で鳥の餌付けを始めました。メジロや頭の赤い少し大きな鳥などが餌をついばみに来てくれてほっと和ませてくれます。